

(42) 須智荒木神社 (すちあらきじんじゃ)

鎮座地：三重県伊賀市荒木108

TEL: 0595-21-5522

参拝日：2013年2月5日、2014年1月15日

主祭神：猿田彦命

祭神：武内宿禰、葛城壘津彦命、大鷦鷯命、譽田別命、大日言貴命、市杵島姫命、天兒屋根命、菅原道眞、彌都波能比賣命、金山彦命、天萬栲幡干比賣命、大魂日命、須佐男命、大山祇命、宇迦能御魂命



鳥居と大きな石灯籠



本殿



手水舎

本社は白鬚大明神、しらひげさんとも呼ばれる。参道入り口には「郷社 須智荒木神社」の石柱と両脇には大きな石灯籠があり、参道を50mくらい歩くと、石の鳥居があり、手前両側に阿吽の狛犬と石灯籠が立ち、また、その左手には安政2年(1855)の作とされる巨大な石造灯籠が聳えている。参道途中には松尾芭蕉が1690年47歳の時に当社で詠んだ「畠うつ音やあらしのさくら麻」の句碑を観ることができる。鳥居をくぐると右手に手水舎があり、長い石段を登ると古い絵や扁額が掛かった拝殿がある。その奥にある本殿は明神造りで、その他境内には神饌所社務所や参箭所がある。天正九年(1581)の天正伊賀の乱で、伝世の古記録・古文書のことごとくが焼失したそうであるが、慶長17年(1612)3月13日に再建されている。社殿左手には鎮霊社が座している。社叢はツクバネガシ、サカキ、タラヨウ、スギ、モミジ、ヒノキ、タケ、アオキ、コナラ、テイカカズラ、カナメモチ、アラカシなどがみられる。

祭祀は例祭が10月20日でその他年中恒例祭儀9回行われている。

由緒：(三重県神社誌)

当社の創祀については、詳らかにはし難い。須智の稲置の一族が、この地を開墾し、ここに奉祀したものと考えられる。平安時代には伊賀国阿拝郡の小社須智荒木神社として、延喜式内社に列せられた。天正9年(1582)の天正伊賀の乱に際して、伝世の古記録・古文書のことごとくを焼失した。只一つ伝承として鎌倉時代に伊賀守仲教なる人物が、社殿を造替したと伝えられている。仲教は寿永2年(1183)伊賀守に任じられており、あるいは鎌倉時代初期に社殿が修造されていたことになろう。その後、慶長



鎮霊社

17年(1612)にいたり、社殿は再建された。江戸時代にはあつく崇敬され当社その他、敢国神社・菅原神社・愛宕神社・浅宇田神社をあわせて伊賀五大社と称し、領主入国の折りに必ず参拝するのが例であった。明治41年(1908)大字西明寺鎮座の八幡宮をはじめ29社をそれぞれ合祀した。昭和6年(1932)村社から郷社昇格。昭和21年(1946)社格廃止。

宝物等 石造灯籠(安政2年〈1855〉作の在銘を有す)